

「東通原子力発電所 1 号機の安全性に関する総合評価（ストレステスト）一次評価結果の報告書」正誤表

No. 1（1月20日公表分再掲）

添付 5. 2 津波 5. 2－7（1）（1／2）

誤											正										
許容津波高さ評価結果											許容津波高さ評価結果										
影響緩和機能（フロントライン系）に関連する設備											影響緩和機能（フロントライン系）に関連する設備										
設計津波高さ(a)：8.8 単位：m											設計津波高さ(a)：8.8 単位：m										
フロント ライン系	設 備		設置場所	耐震 クラス	設置高さ (b)	損傷 モード	許容津波 高さ (c)	裕度 (d) (c-a)	フロント系の 許容津波高さ (c) の最小値	フロント系の 裕度 (d) の最小値	フロント ライン系	設 備		設置場所	耐震 クラス	設置高さ (b)	損傷 モード	許容津波 高さ (c)	裕度 (d) (c-a)	フロント系の 許容津波高さ (c) の最小値	フロント系の 裕度 (d) の最小値
主蒸気逃がし 安全弁による 原子炉圧力 制御	主蒸気逃がし 安全弁	弁	原子炉建屋 (格納容器内)	S	—	—	—	—	—	—	主蒸気逃がし 安全弁	主蒸気逃がし 安全弁	弁	原子炉建屋 (格納容器内)	S	—	—	—	—	—	—
	非常用 ディーゼル 発電設備	ディーゼル機関 (発電機含む)	原子炉建屋	S	4.2	浸水	15.0	+6.2	13.8	+5.0	非常用 ディーゼル 発電設備	ディーゼル機関 (発電機含む)	原子炉建屋	S	4.2	浸水	15.0	+6.2	13.8	+5.0	
		燃料デイトank	原子炉建屋		13.2	—	—	—				燃料デイトank	原子炉建屋		13.2	—	—	—			
		空気だめ	原子炉建屋		4.2	—	—	—				空気だめ	原子炉建屋		4.2	—	—	—			
		計装ラック	原子炉建屋		-2.8	浸水	15.0	+6.2				計装ラック	原子炉建屋		-2.8	浸水	15.0	+6.2			
		制御盤	原子炉建屋		-2.8	浸水	15.0	+6.2				制御盤	原子炉建屋		4.2	浸水	15.0	+6.2			
		燃料移送ポンプ	屋外		13.7	浸水	13.8	+5.0				燃料移送ポンプ	屋外		13.7	浸水	13.8	+5.0			
		弁	原子炉建屋		4.2	浸水	15.0	+6.2				弁	原子炉建屋		4.2	浸水	15.0	+6.2			
		軽油タンク	屋外 (防油堤内)		13.2	浸水	15.7	+6.9				軽油タンク	屋外 (防油堤内)		13.2	浸水	15.7	+6.9			
		ディーゼル機関 (発電機含む)	原子炉建屋		4.2	浸水	15.0	+6.2				ディーゼル機関 (発電機含む)	原子炉建屋		4.2	浸水	15.0	+6.2			

添付 5. 2 津波 5. 2－7（2）（1／2）

誤

許容津波高さ評価結果

影響緩和機能（サポート系）に関連する設備

設計津波高さ(a)：8.8 単位：m

サポート系	設 備		設置場所	耐震 クラス	設置高さ (b)	損傷 モード	許容津波 高さ (c)	裕度 (d) (c-a)	サポート系の 許容津波高さ (c) の最小値	サポート系の 裕度 (d) の最小値
非常用 交流電源	非常用ディーゼル 発電設備	ディーゼル機関 (発電機含む)	原子炉建屋	S	4.2	浸水	15.0	+6.2	13.8	+5.0
		燃料デイトank	原子炉建屋		13.2	－	－	－		
		空気だめ	原子炉建屋		4.2	－	－	－		
		計装ラック	原子炉建屋		-2.8	浸水	15.0	+6.2		
		制御盤	原子炉建屋		-2.8	浸水	15.0	+6.2		
		燃料移送ポンプ	屋外		13.7	浸水	13.8	+5.0		
		弁	原子炉建屋		4.2	浸水	15.0	+6.2		
		軽油タンク	屋外 (防油堤内)		13.2	浸水	15.7	+6.9		
		ディーゼル機関 (発電機含む)	原子炉建屋		4.2	浸水	15.0	+6.2		

正

許容津波高さ評価結果

影響緩和機能（サポート系）に関連する設備

設計津波高さ(a)：8.8 単位：m

サポート系	設 備		設置場所	耐震 クラス	設置高さ (b)	損傷 モード	許容津波 高さ (c)	裕度 (d) (c-a)	サポート系の 許容津波高さ (c) の最小値	サポート系の 裕度 (d) の最小値
非常用 交流電源	非常用ディーゼル 発電設備	ディーゼル機関 (発電機含む)	原子炉建屋	S	4.2	浸水	15.0	+6.2	13.8	+5.0
		燃料デイトank	原子炉建屋		13.2	－	－	－		
		空気だめ	原子炉建屋		4.2	－	－	－		
		計装ラック	原子炉建屋		-2.8	浸水	15.0	+6.2		
		制御盤	原子炉建屋		4.2	浸水	15.0	+6.2		
		燃料移送ポンプ	屋外		13.7	浸水	13.8	+5.0		
		弁	原子炉建屋		4.2	浸水	15.0	+6.2		
		軽油タンク	屋外 (防油堤内)		13.2	浸水	15.7	+6.9		
		ディーゼル機関 (発電機含む)	原子炉建屋		4.2	浸水	15.0	+6.2		

誤

許容津波高さ評価結果

起因事象に関連する設備

起因事象	設 備	設置場所	耐震 ^(注) クラス	設置高さ (b)	損傷 モード	許容津波 高さ (c)	裕度 (d) (c-a)	設計津波高さ (a) : 8.8 単位 : m 起因事象の 許容津波高さ (c) の最小値	起因事象の 発生裕度 (d) の最小値
外部電源喪失	主変圧器, 高起動変圧器, 低起動変圧器	屋外	C	13.0	浸水	13.0	+4.2	13.0	+4.2
	所内変圧器	屋外	C	13.0	浸水	13.0	+4.2		

注 : 耐震クラスは、当該系統の代表的なクラスを記載

影響緩和機能（フロントライン系）に関連する設備

フロント ライン系	設 備	設置場所	耐震 ^(注) クラス	設置高さ (b)	損傷 モード	許容津波 高さ (c)	裕度 (d) (c-a)	設計津波高さ (a) : 8.8 単位 : m フロントライン系の 許容津波高さ (c) の最小値	フロントライン系の 裕度 (d) の最小値
非常用 ディーゼル 発電設備	ディーゼル機関 (発電機含む)	原子炉建屋	S	4.2	浸水	15.0	+6.2	13.8	+5.0
	燃料デイトank	原子炉建屋		13.2	—	—	—		
	空気だめ	原子炉建屋		4.2	—	—	—		
	計装ラック	原子炉建屋		-2.8	浸水	15.0	+6.2		
	制御盤	原子炉建屋		-2.8	浸水	15.0	+6.2		
	燃料移送ポンプ	屋外		13.7	浸水	13.8	+5.0		
	弁	原子炉建屋		4.2	浸水	15.0	+6.2		
	軽油タンク	屋外 (防油境内)		13.2	浸水	15.7	+6.9		
	非常用交流電 源による給電	ディーゼル機関 (発電機含む)		原子炉建屋		4.2	浸水		

正

許容津波高さ評価結果

起因事象に関連する設備

起因事象	設 備	設置場所	耐震 ^(注) クラス	設置高さ (b)	損傷 モード	許容津波 高さ (c)	裕度 (d) (c-a)	設計津波高さ (a) : 8.8 単位 : m 起因事象の 許容津波高さ (c) の最小値	起因事象の 発生裕度 (d) の最小値
外部電源喪失	主変圧器, 高起動変圧器, 低起動変圧器	屋外	C	13.0	浸水	13.0	+4.2	13.0	+4.2
	所内変圧器	屋外	C	13.0	浸水	13.0	+4.2		

注 : 耐震クラスは、当該系統の代表的なクラスを記載

影響緩和機能（フロントライン系）に関連する設備

フロント ライン系	設 備	設置場所	耐震 ^(注) クラス	設置高さ (b)	損傷 モード	許容津波 高さ (c)	裕度 (d) (c-a)	設計津波高さ (a) : 8.8 単位 : m フロントライン系の 許容津波高さ (c) の最小値	フロントライン系の 裕度 (d) の最小値	
非常用 ディーゼル 発電設備	ディーゼル機関 (発電機含む)	原子炉建屋	S	4.2	浸水	15.0	+6.2	13.8	+5.0	
	燃料デイトank	原子炉建屋		13.2	—	—	—			
	空気だめ	原子炉建屋		4.2	—	—	—			
	計装ラック	原子炉建屋		-2.8	浸水	15.0	+6.2			
	制御盤	原子炉建屋		4.2	浸水	15.0	+6.2			
	燃料移送ポンプ	屋外		13.7	浸水	13.8	+5.0			
	弁	原子炉建屋		4.2	浸水	15.0	+6.2			
	軽油タンク	屋外 (防油境内)		13.2	浸水	15.7	+6.9			
	非常用交流電 源による給電	ディーゼル機関 (発電機含む)		原子炉建屋		4.2	浸水			15.0

誤										正											
許容津波高さ評価結果										許容津波高さ評価結果											
影響緩和機能（サポート系）に関連する設備										影響緩和機能（サポート系）に関連する設備											
設計津波高さ(a): 8.8 単位:m										設計津波高さ(a): 8.8 単位:m											
サポート系	設 備		設置場所	耐震 クラス	設置高さ (b)	損傷 モード	許容津波 高さ (c)	裕度(d) (c-a)	サポート系の 許容津波高さ (c) の最小値	サポート系の 裕度 (d) の最小値	サポート系	設 備		設置場所	耐震 クラス	設置高さ (b)	損傷 モード	許容津波 高さ (c)	裕度(d) (c-a)	サポート系の 許容津波高さ (c) の最小値	サポート系の 裕度 (d) の最小値
非常用 交流電源	非常用ディーゼル 発電設備	ディーゼル機関 (発電機含む)	原子炉建屋	S	4.2	浸水	15.0	+6.2	13.8	+5.0	非常用ディーゼル 発電設備	ディーゼル機関 (発電機含む)	原子炉建屋	S	4.2	浸水	15.0	+6.2	13.8	+5.0	
		燃料デイトank	原子炉建屋		13.2	—	—	—				燃料デイトank	原子炉建屋		13.2	—	—	—			
		空気だめ	原子炉建屋		4.2	—	—	—				空気だめ	原子炉建屋		4.2	—	—	—			
		計装ラック	原子炉建屋		-2.8	浸水	15.0	+6.2				計装ラック	原子炉建屋		-2.8	浸水	15.0	+6.2			
		制御盤	原子炉建屋		-2.8	浸水	15.0	+6.2				制御盤	原子炉建屋		4.2	浸水	15.0	+6.2			
		燃料移送ポンプ	屋外		13.7	浸水	13.8	+5.0				燃料移送ポンプ	屋外		13.7	浸水	13.8	+5.0			
		弁	原子炉建屋		4.2	浸水	15.0	+6.2				弁	原子炉建屋		4.2	浸水	15.0	+6.2			
		軽油タンク	屋外 (防油堤内)		13.2	浸水	15.7	+6.9				軽油タンク	屋外 (防油堤内)		13.2	浸水	15.7	+6.9			
		ディーゼル機関 (発電機含む)	原子炉建屋			4.2	浸水	15.0				+6.2			非常用 交流電源	ディーゼル機関 (発電機含む)	原子炉建屋				4.2

誤

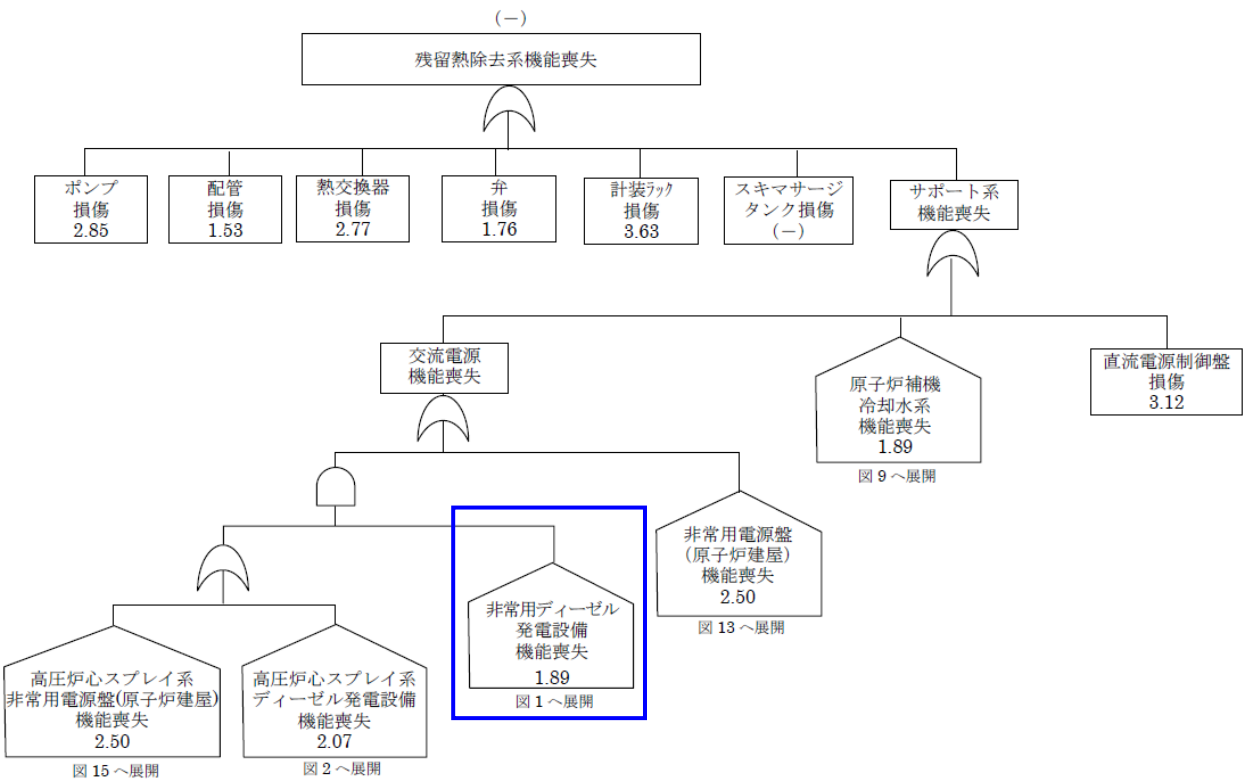


図3 燃料プールからの除熱機能喪失（残留熱除去系機能喪失）のフォールトツリー

正

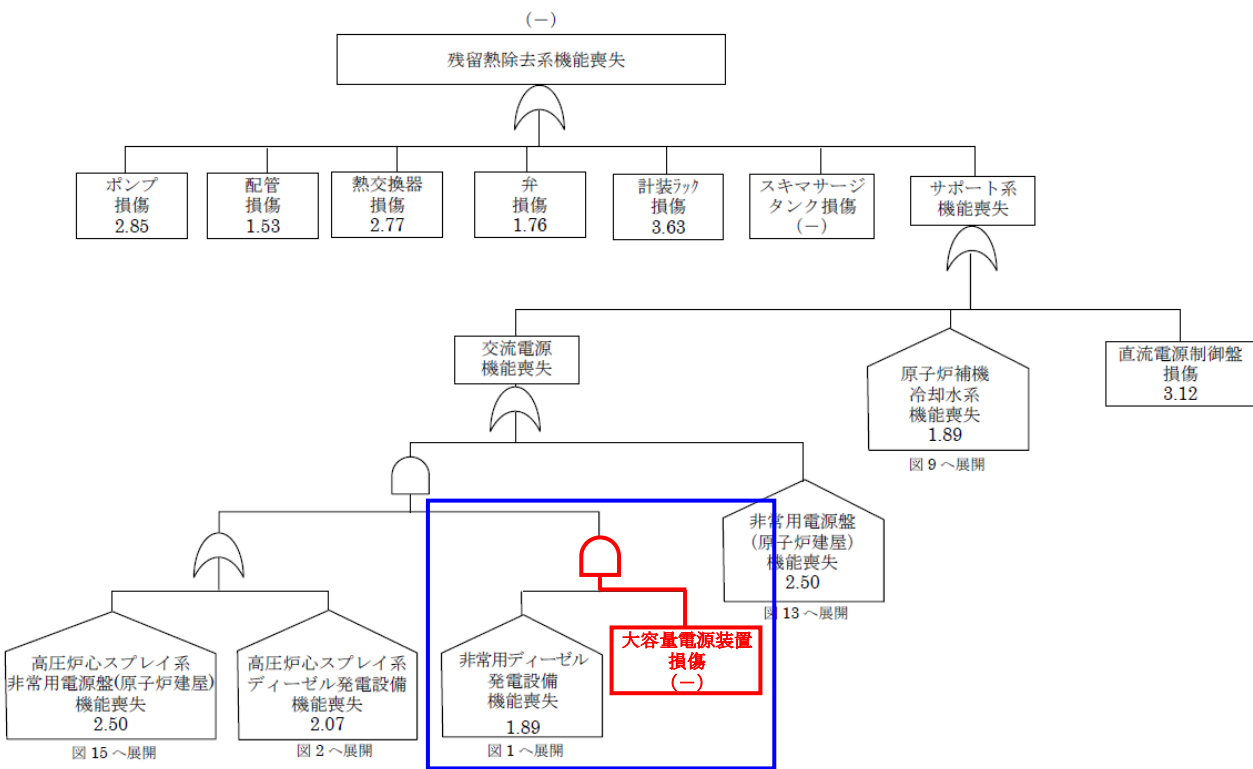


図3 燃料プールからの除熱機能喪失（残留熱除去系機能喪失）のフォールトツリー

誤

(－)

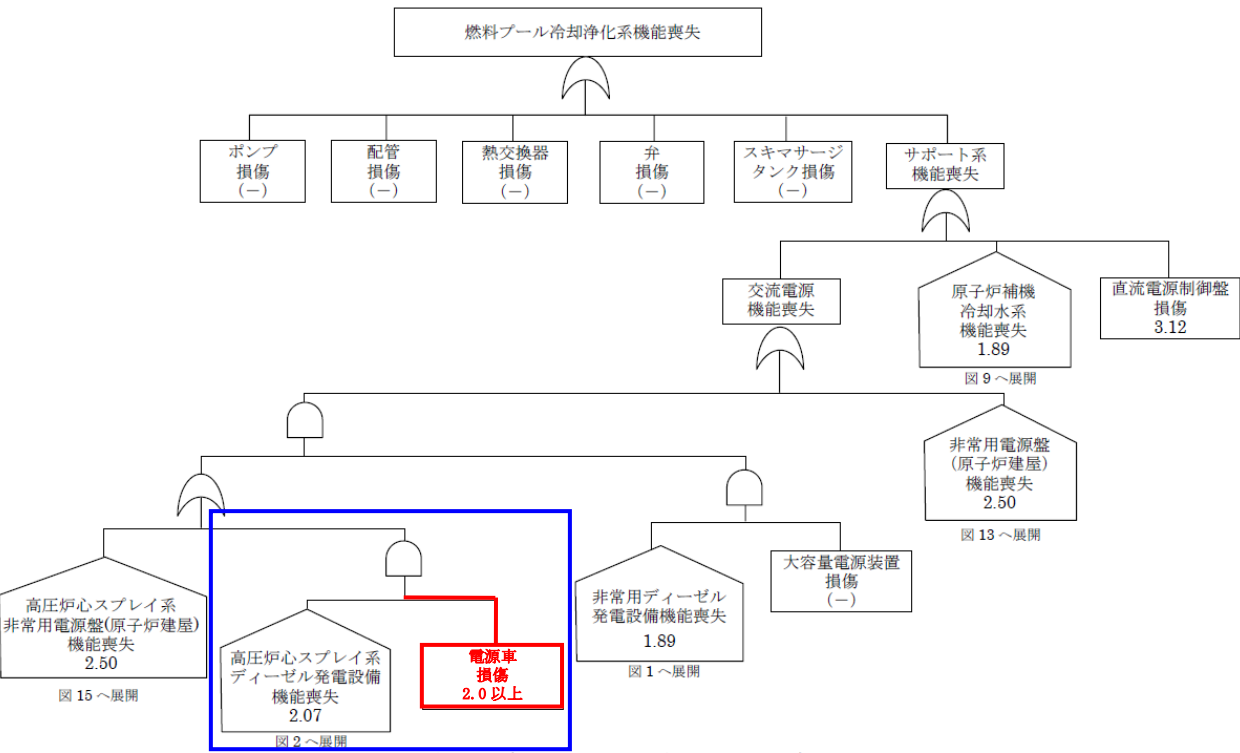


図4 燃料プールからの除熱機能喪失（燃料プール冷却浄化系機能喪失）のフォールトツリー

正

(－)

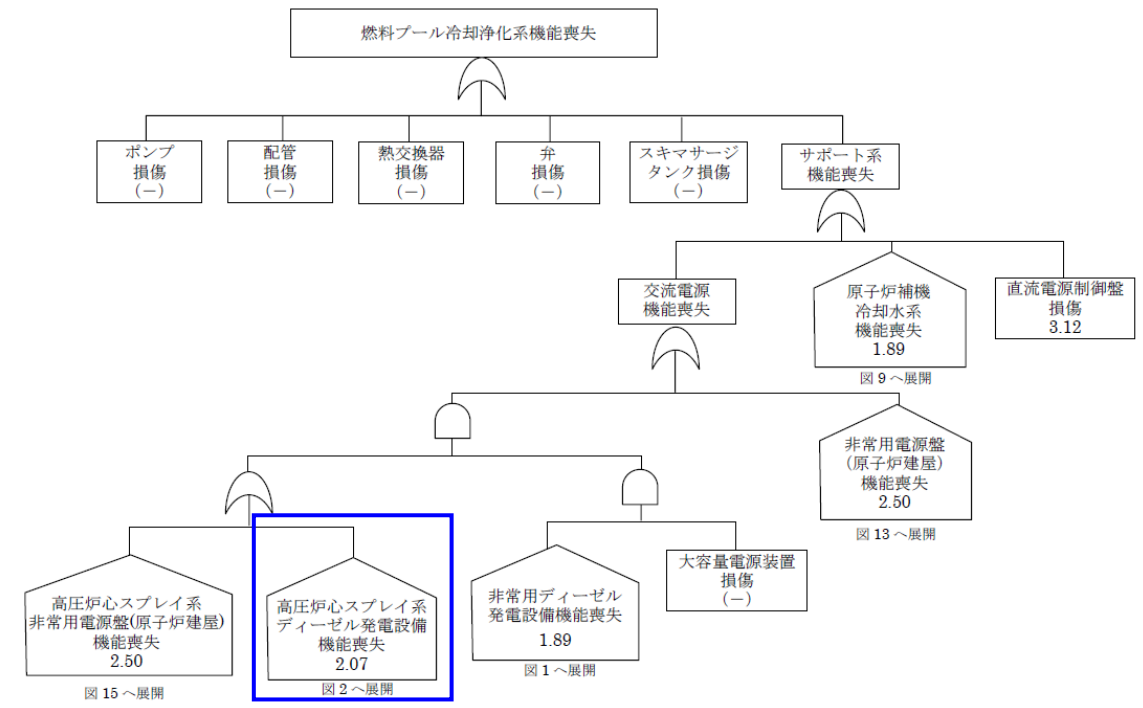


図4 燃料プールからの除熱機能喪失（燃料プール冷却浄化系機能喪失）のフォールトツリー

誤

13.3 (+4.5)

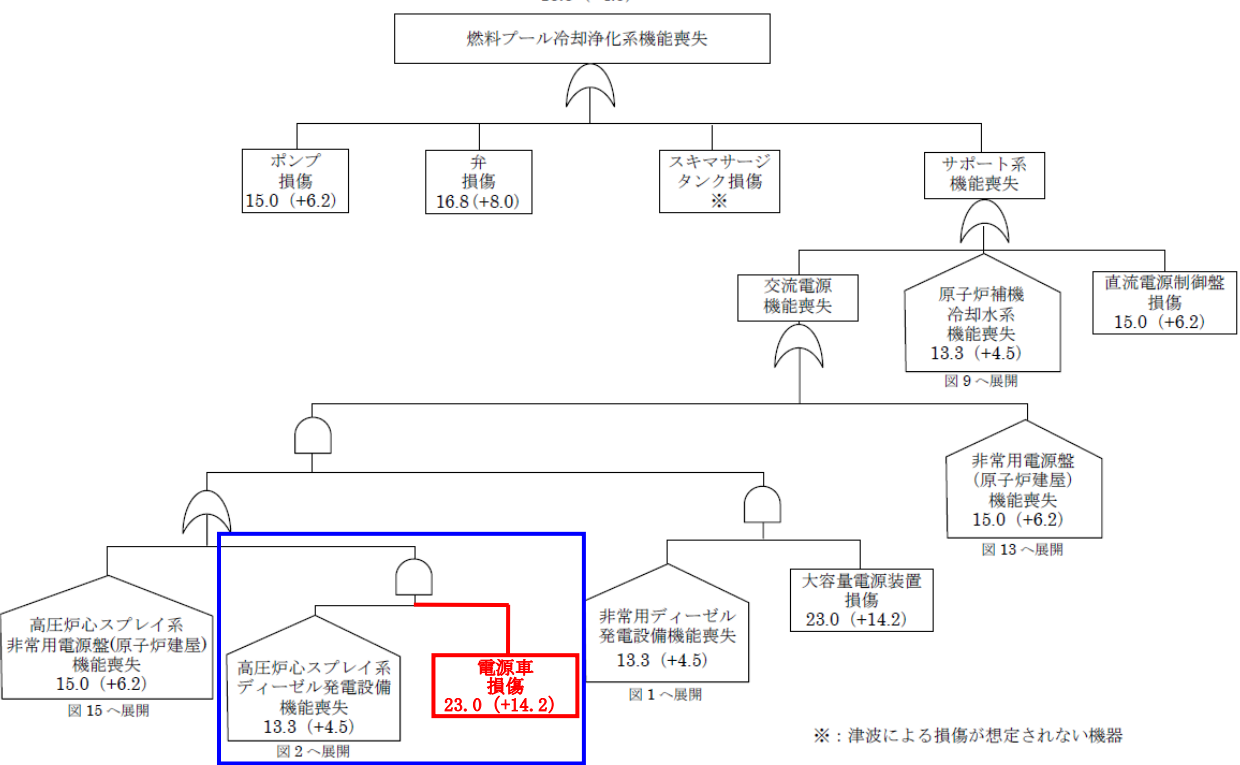


図4 燃料プールからの除熱機能喪失（燃料プール冷却浄化系機能喪失）のフォールトツリー

正

13.3 (+4.5)

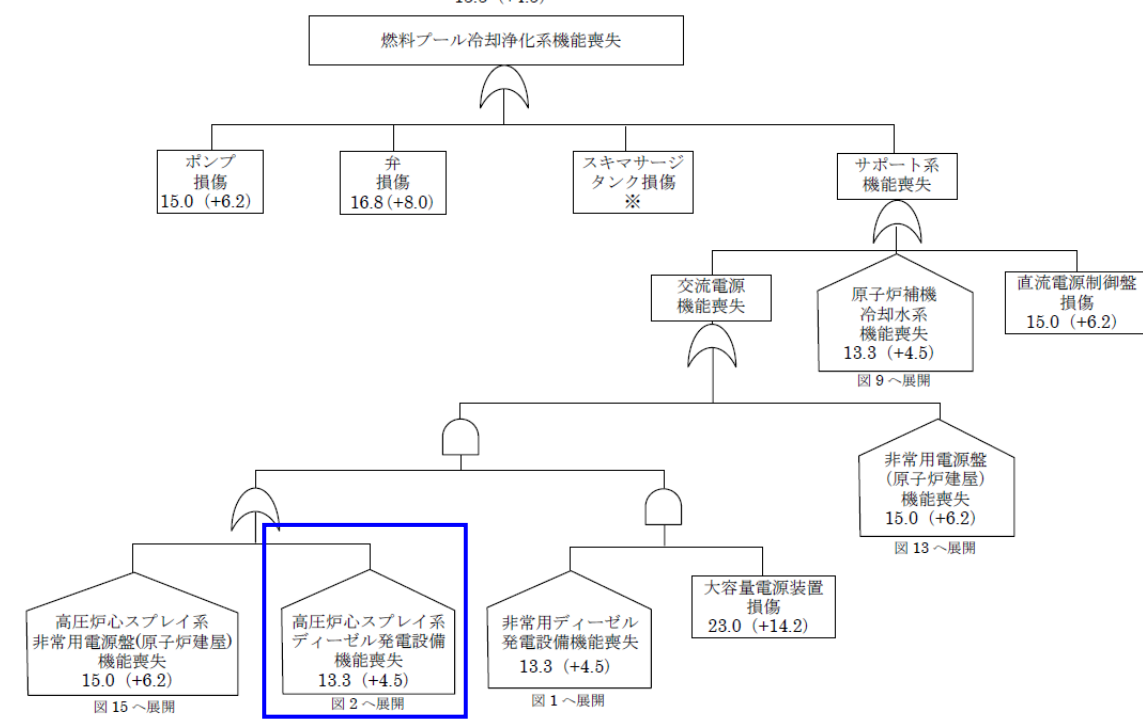


図4 燃料プールからの除熱機能喪失（燃料プール冷却浄化系機能喪失）のフォールトツリー

誤

3.02

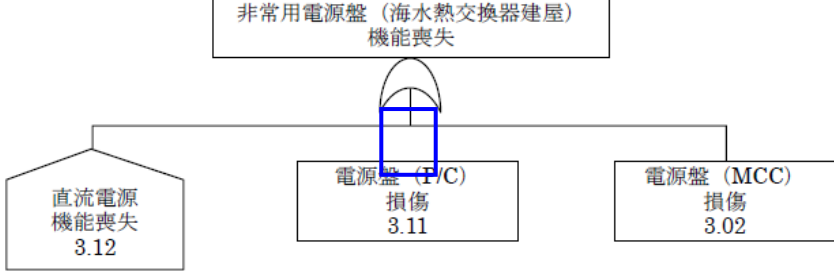


図 22 へ展開

図 1 9 非常用電源盤（海水熱交換器建屋）機能喪失のフォールトツリー

正

3.02

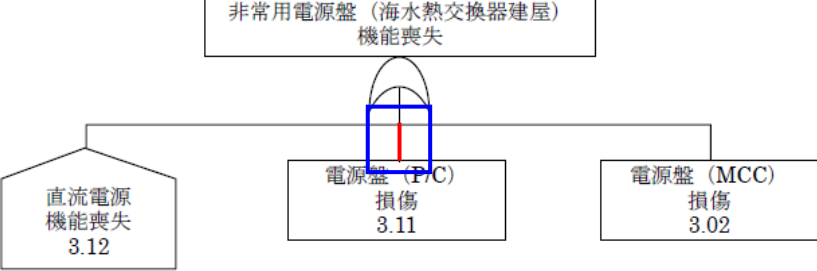


図 22 へ展開

図 1 9 非常用電源盤（海水熱交換器建屋）機能喪失のフォールトツリー

誤

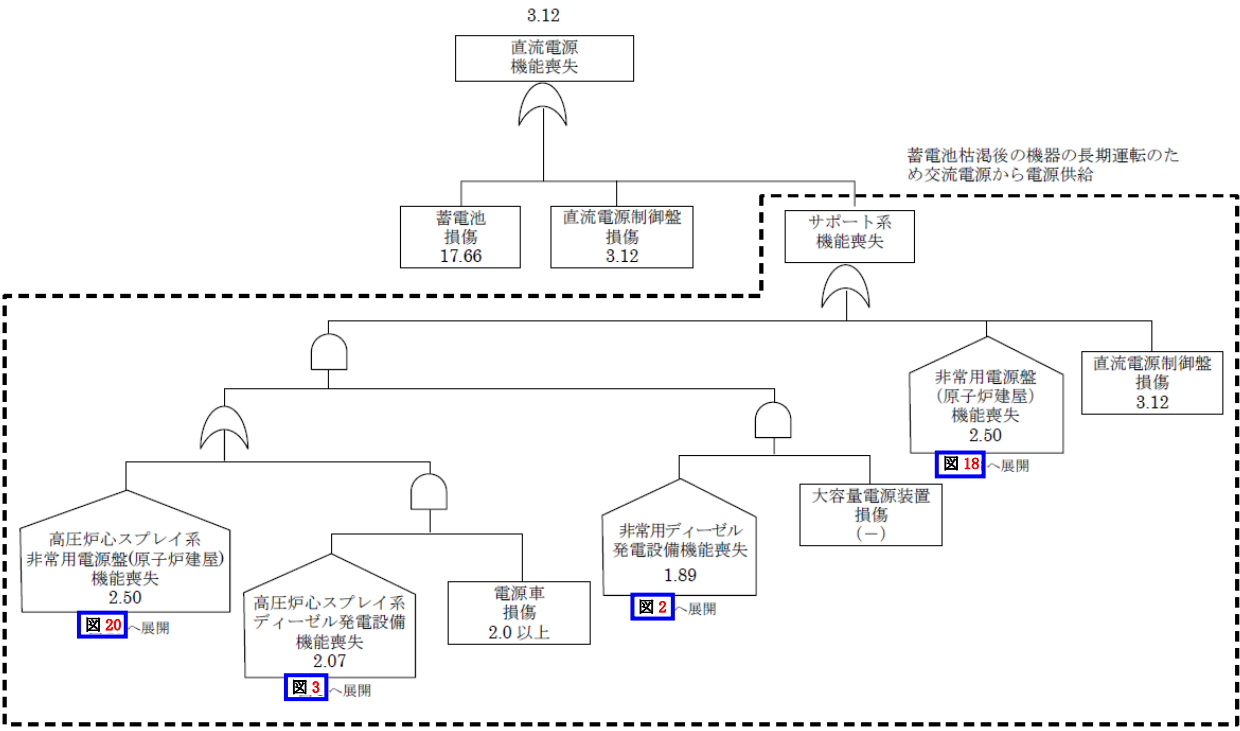


図16 直流電源機能喪失のフォールトツリー

正

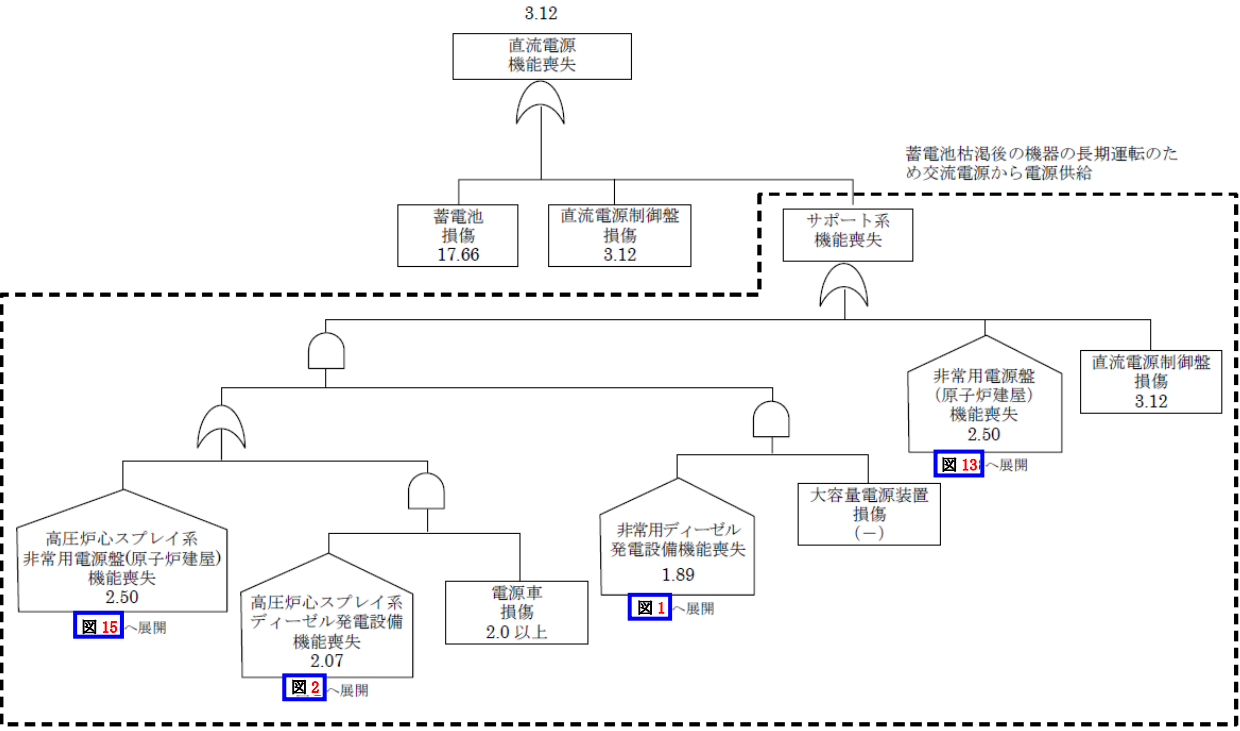


図16 直流電源機能喪失のフォールトツリー

誤

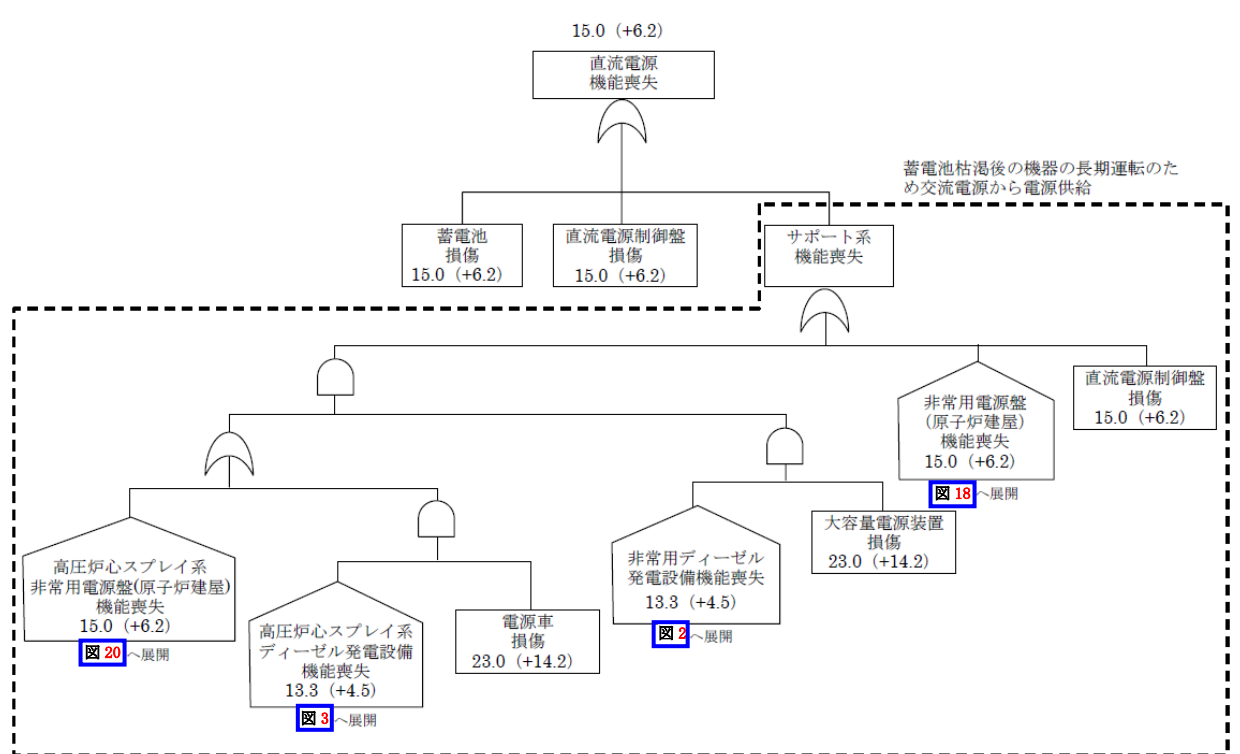


図16 直流電源機能喪失のフォールトツリー

正

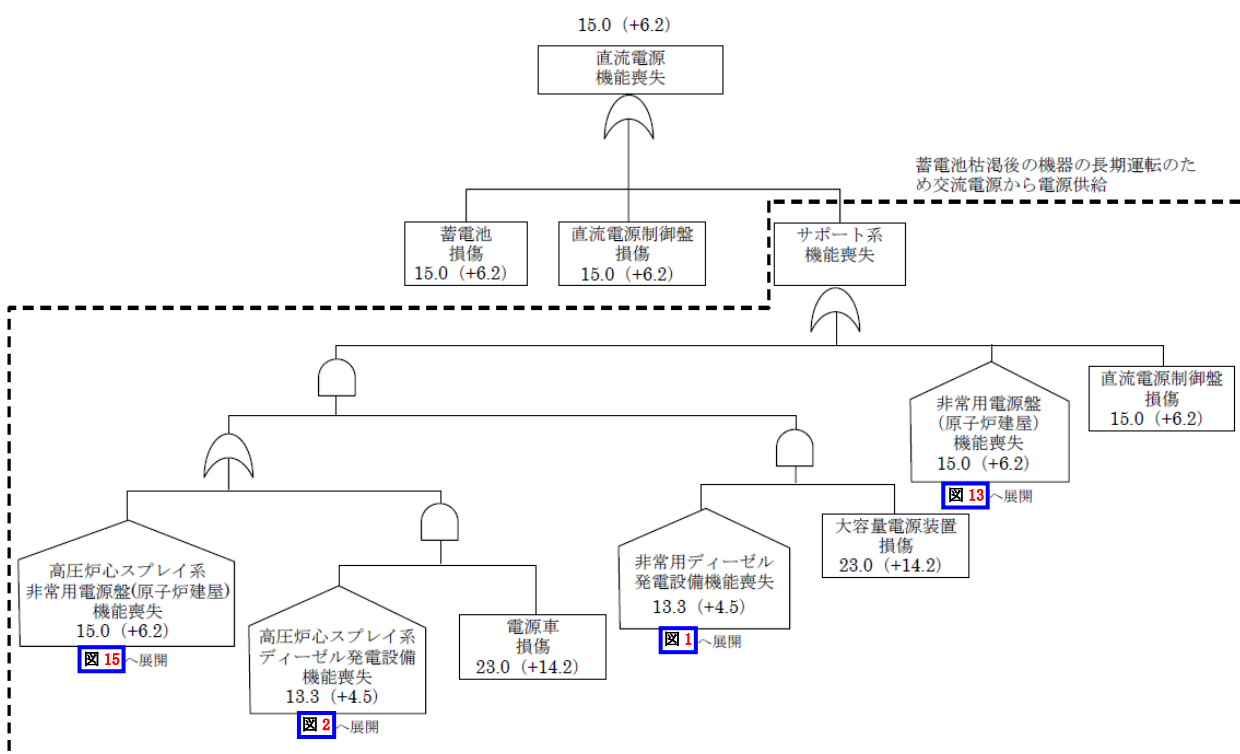


図16 直流電源機能喪失のフォールトツリー

No. 6

本文 P. 58 5. 4 全交流電源喪失 (3) ① c. (b)	
誤	正
(b) 電源機能 全交流電源が発生した場合、緊急安全対策により、大容量電源装置または電源車から非常用母線に電源を供給する。これにより、注水機能または冷却機能が維持され、燃料の損傷が回避される。詳細については (a) 項で述べたとおり。 なお、電源供給の優先順位は以下のとおり。 ア. 大容量電源装置 イ. 電源車	(b) 電源機能 全交流電源喪失が発生した場合、緊急安全対策により、大容量電源装置または電源車から非常用母線に電源を供給する。これにより、注水機能または冷却機能が維持され、燃料の損傷が回避される。詳細については (a) 項で述べたとおり。 なお、電源供給の優先順位は以下のとおり。 ア. 大容量電源装置 イ. 電源車

No. 7

本文 P. 63 5. 4 全交流電源喪失 (3) ③	
誤	正
また、① b (c) 項の防護措置の整理結果から、緊急安全対策により全電源喪失時における注水機能および電源機能について、多重防護の観点から、多重性・多様性が図られたことを以下のとおり確認した。	また、① b (c) 項の防護措置の整理結果から、緊急安全対策により全交流電源喪失時における注水機能および電源機能について、多重防護の観点から、多重性・多様性が図られたことを以下のとおり確認した。

本文 P.91 5. 6 その他のシビアアクシデント・マネジメント (3) a. (c) - 1 - 7 表 5. 6. 9

誤			正		
表 5. 6. 9 逃がし安全弁誤開放に対する防護措置の整備状況			表 5. 6. 9 逃がし安全弁誤開放に対する防護措置の整備状況		
	基本設計段階	AM 策		基本設計段階	AM 策
原子炉 注水機能	○給水系	—	原子炉 注水機能	○給水系	—
	【高圧注水】 ○高圧炉心スプレイ系 (HPCS)			【高圧注水】 ○高圧炉心スプレイ系 (HPCS)	
	【低圧注水】 ○低圧炉心スプレイ系 (LPCS) ○低圧注水系 (LPCI) ○復水系	【代替低圧注水】 ○復水補給水系 (MUWC) ○消火系 (FP)		【低圧注水】 ○低圧炉心スプレイ系 (LPCS) ○低圧注水系 (LPCI) ○復水系	【代替低圧注水】 ○復水補給水系 (MUWC) ○消火系 (FP)
格納容器 除熱機能	○通常除熱系(復水器) ○残留熱除去系 (RHR)	【格納容器ベント】 ○耐圧強化ベント	格納容器 除熱機能	○残留熱除去系 (RHR)	【格納容器ベント】 ○耐圧強化ベント
	【格納容器ベント】 ○格納容器調気系, 非常用ガス処理系			【格納容器ベント】 ○格納容器調気系, 非常用ガス処理系	

本文 P.111 5. 6 その他のシビアアクシデント・マネジメント (3) a. (c) - 2 ii. (ii) 表 5. 6. 26

誤			正		
表 5. 6. 26 電源喪失（直流電源枯渇，直流電源喪失）に対する防護措置の整備状況			表 5. 6. 26 電源喪失（直流電源枯渇，直流電源喪失）に対する防護措置の整備状況		
	基本設計段階	AM 策等		基本設計段階	AM 策等
原子炉 および 格納容器 注水機能	【原子炉減圧】 ○原子炉の手動減圧	【代替低圧注水】 ○復水補給水系 (MUWC) ○消火系 (FP)	原子炉 および 格納容器 注水機能	【原子炉減圧】 ○原子炉の手動減圧	【代替低圧注水】 ○復水補給水系 (MUWC) ○消火系 (FP)
	【低圧注水】 ○低圧炉心スプレイ系 (LPCS) ○低圧注水系 (LPCI)			【低圧注水】 ○低圧炉心スプレイ系 (LPCS) ○低圧注水系 (LPCI)	
格納容器 除熱機能	○通常除熱系(復水器) ○残留熱除去系 (RHR)	【格納容器ベント】 ○耐圧強化ベント	格納容器 除熱機能	○残留熱除去系 (RHR)	【格納容器ベント】 ○耐圧強化ベント
安全機能の サポート機能	○外部電源の復旧	○電源融通 ○非常用ディーゼル発電機の復旧 ○大容量電源装置の配備 ○電源車の配備	安全機能の サポート機能	○外部電源の復旧	○電源融通 ○非常用ディーゼル発電機の復旧 ○大容量電源装置の配備 ○電源車の配備

No. 9

本文 P.97 5. 6 その他のシビアアクシデント・マネジメント (3) a. (c) - 1 - 1 0	
誤	正
AM策を考慮した場合には、「代替制御棒挿入によるスクラム (A R I)」、 「代替低圧注水」、「格納容器ベント」が追加され、炉心損傷回避に使用で きる系統・機能の組み合わせが増えることから、以下の5通りの炉心損傷 回避シナリオが追加される。	AM策を考慮した場合には、「代替制御棒挿入によるスクラム (A R I)」、 「代替低圧注水」、「格納容器ベント」が追加され、炉心損傷回避に使用で きる系統・機能の組み合わせが増えることから、以下の10通りの炉心損 傷回避シナリオが追加される。

No. 10

本文 P.101 5. 6 その他のシビアアクシデント・マネジメント (3) a. (c) - 2 i.	
誤	正
(c)-2 格納容器機能喪失防止 i. 事象進展シナリオの特定 格納容器機能喪失防止のための事象進展の評価に際して、炉心損傷に至 った起因事象、格納容器機能喪失防止のための緩和機能の相違、原子炉圧 力容器内の状態や格納容器内での事象進展等の組み合わせを考慮すると、 事象進展シナリオに係るプラント状態は、表5. 6. 18に示す8つのカ テゴリに分類することができる。 これらの分類のもと、格納容器損傷防止の観点からAM策として整備し た防護措置を考慮した格納容器イベントツリーを添付5. 6-5に示す。	(c)-2 格納容器機能喪失防止 i. 事象進展シナリオの特定 格納容器機能喪失防止のための事象進展の評価に際して、炉心損傷に至 った起因事象、格納容器機能喪失防止のための緩和機能の相違、原子炉圧 力容器内の状態や格納容器内での事象進展等の組み合わせを考慮すると、 事象進展シナリオに係るプラント状態は、表5. 6. 18に示す8つのカ テゴリに分類することができる。 これらの分類のもと、格納容器損傷防止の観点からAM策として整備し た防護措置を考慮した格納容器イベントツリーを添付5. 6-6に示す。

No. 11

添付資料 5. 2 津波 5. 2-2 (26/38) 第3. 1-1 表

誤

第 3. 1-1 表 海域活断層による津波の敷地における推定津波高

海域断層	断層長 L (km)	断層幅 W (km)	すべり量 D (km)	地震 モーメント Mo (km)	モーメント マグニチュード [*] Mw	津波の 伝播距離 △ (km)	推定 津波高 Ht (m)
敷地東方沖	14.5	9.7	1.21	5.91×10 ¹⁸	6.5	21	0.4
恵山沖	47	15.0	3.91	9.64×10 ¹⁹	7.3	93	0.6

正

第 3. 1-1 表 海域活断層による津波の敷地における推定津波高

海域断層	断層長 L (km)	断層幅 W (km)	すべり量 D (m) ¹	地震 モーメント Mo (N・m)	モーメント マグニチュード [*] Mw	津波の 伝播距離 △ (km)	推定 津波高 Ht (m)
敷地東方沖	14.5	9.7	1.21	5.91×10 ¹⁸	6.5	21	0.4
恵山沖	47	15.0	3.91	9.64×10 ¹⁹	7.3	93	0.6